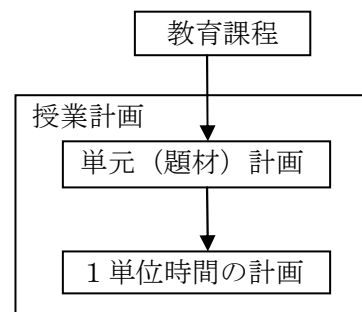


Q. 2 単元（題材）計画をどのように立てればよいのでしょうか。また、『単元（題材）の中の1単位時間』とは、どういう意味なのでしょうか。

A. 子どもたちは、授業を通して『わかる・できる』ことを求めています。そのために、教師は子どもたちの実態を把握し、教材研究を行い、学習展開を考えていきます。しかし、学習は『続きもの』です。児童生徒の興味・関心を喚起し、学習が持続できるようにするためにも、1時間ごとに内容が分断されるような授業ではなく、学びの連続があり、数時間のまとまりがある指導計画を立てていく必要があります。これが『単元（題材）※』の考え方です。

単元（題材）の指導計画を立て、その上で1単位時間の授業を構想するようにします。これが『単元（題材）の中の1単位時間』の意味するところです。



○単元（題材）計画作成の手順

最初に、「この単元（題材）を通して、子どもたちにどのような力を付けるのか」ということをしっかりおさえることが大切です。これが、単元（題材）目標になります。その際に、『学習指導要領（文部科学省）』、『同解説（同）』等を参考にするとういでしょう。

続いて、単元（題材）の指導計画を作成していきます。学習内容の配列（順序）を考えたり、配当する時間数を決めたりします。授業者の考え（指導観）を明確にすることが大切です。

指導計画に併せて、単元（題材）の評価計画を作成します。単元（題材）を通して『関心・意欲・態度』『思考・判断・表現』など、単元（題材）目標に準拠して、それぞれの観点（教科によって数や名称は異なる）に応じた評価をしていくようにします。また、1単位時間に全観点を評価することは不可能ですから、どの1時間にどの観点を評価するのかということについて、ねらいを明確にして配当することになります。この際には『評価規準の作成のための参考資料（国立教育政策研究所）』等を参考にしてください。【Q. 6、Q. 7 参照】

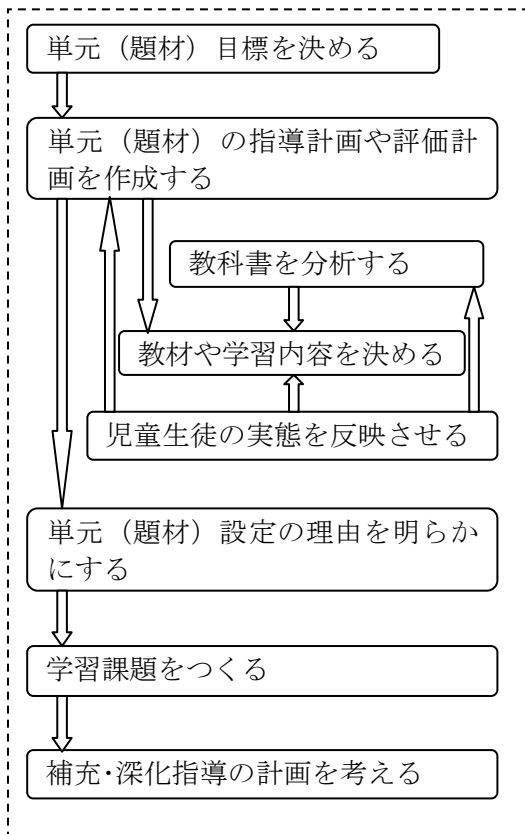
そして、学習内容や教材を考えていきます。学習指導要領に示された内容をもとに、児童生徒の実態等に応じて、補助的な教材を考えたり、過年度の学習事項を取り入れたりします。教科書の内容を分析することも大切です。

単元（題材）計画を綿密にしておくことで、1単位時間の計画も立てやすくなります。最初は目先の1時間の授業の計画を考えることで精一杯かもしれませんが、徐々に単元（題材）計画を考えるようにしましょう。また、単元（題材）の指導後には、初めに立てた計画を振り返り、次の単元（題材）計画の作成や次年度以降の指導に生かすことも大切です。

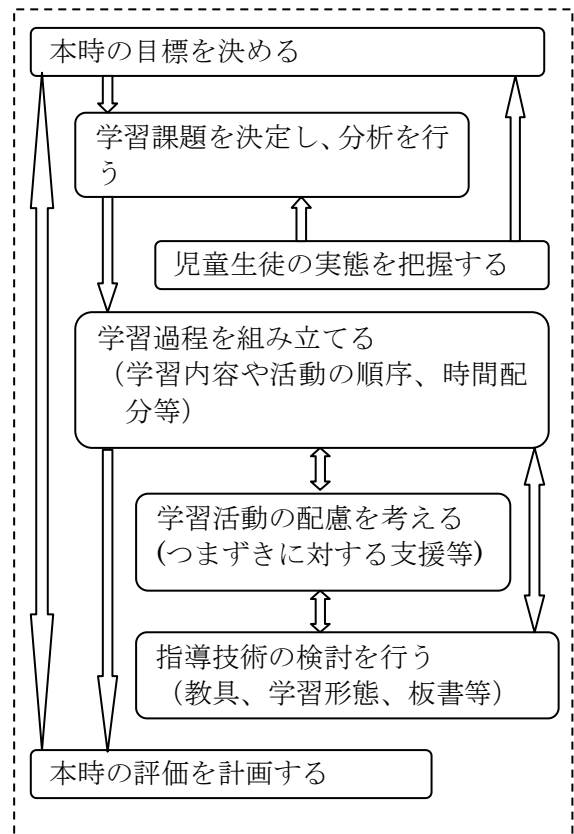
次ページに単元（題材）計画作成の手順例を図にまとめました。また、1単位時間の授業計画の作成手順例も併せて載せましたので、参考にしてください。

○作成の手順例

◇単元（題材）計画



◇1 単位時間の授業計画



(注：上の図は『わかる授業（中学校編）』p. 67～68 北九州市教育委員会指導部編 あらき書店を参考に作成した)

『題材』とは？

学習指導の内容を構成するまとまりとして、学習指導の目標や内容を組織付けた指導の単位であり、いくつかのねらいをもった活動のまとまりのことです。

※音楽、図画工作、美術、家庭科、技術・家庭科、芸術などの教科では、『単元』ではなく『題材』という用語を用います。【Q. 5 参照】

